

関鑑子先生が死去

メーデー中央式典壇上で突然倒れる 50万余のうたごえに送られて



最後の関先生 1日、東京・代々木公園の中央メーデーで「世界をつなげ花の輪に」を指揮。この直後倒れた。

全生涯を平和と音楽に捧げた関鑑子先生の 遺志をひきつぎ前進しよう

一九七三年五月二日 日本のうたごえ実行委員会

関鑑子先生は五月一日第
四十四回中央メーデー会
場で式典の最後をかざる五
万人の「世界をつなげ花の
輪に」の大合唱指揮をやり
とげた直後、意識不明に陥
り、五月二日午後二時二十
分死去しました。万国の労
働者と孤庄された民族の団
結とたたかいの一日―全世
界にとどろく怒濤のよつな
うたごえの中で息をひきと
りました。赤い旗の指揮棒
はしっかりと楯の上にかか
げられ、中央合唱団のうた
ろ一同涙はたおれぬ「お
ごそかなうたごえに迎えら

れて音楽センターのレッス
ン場に戻ってきました。
「働く人々、青年たちの
若々しい雄々しいたたかい
にはげまされ、はげまされ
て明るいうたごえがささ
り、さらにひろまり、高ま
り、力強く平和の力にな
れ」と自らの音楽と生活を
大衆に捧げつづき、七三年
の全生涯を終えました。

関鑑子先生は全身の情熱
をかたむけて死の瞬間まで
うたごえを全国民のものに
するため、闘いぬきました。
メーデー前後、出演の
中央合唱団の練習を夜おそ

くまでやり、「あなたの職
場ではうたごえは労働者の
役に立っていますか」と労
働者の状態を熱心に聞き、
ひとりひとりに「メーデー
に参加できますか。職場は
きびしいようですね、大
丈夫ですか。必ずこのメ
ーデーに参加しましょう
ね」と、音楽にたいす
る愛情をほとばしらせてき
ました。いつも暖かいま
なざしを労働者や子供たち
にそそぎ、広がりあたたか
さをもっていた先生。ベ
トナム停戦実現、総選挙革

新勝利、七三年春闘、日本
労働運動史上最大のゼネス
ト、世界と日本の歴史の足
音が高なる中で、国鉄東京
合唱団が全国の先頭を切っ
てメーデー歌集を全職場に
広めていったことを喜び、
メーデーの一週間前、全国
に次のような激電を打ちま
した。

「メーデーに際しまし
て、皆さまのすばらしい活
動に心から感謝しております
。全国の皆さまのもう一
歩の活躍で今日の日本を委
革させることができるのです。
日本中にとどろく力強いうた

ごえを革新ののろしとして
がんばりましょう。現在メ
ーデー歌集五十二万突破。
八十万へ、八十万へ―関
鑑子」

先生は、大正から昭和に
かけて日本の楽壇で音楽家
として活躍し、昭和初期の
プロレタリア文化芸術運動
の発展のなかで昭和四年に
組織された、プロレタリア
音楽家同盟(P.M.)の初代
委員長として絶対主義的天
皇制の侵略戦争の拡大に反
対し、弾圧の嵐をくまされ
中、日本の革命的、民主
的、大衆の音楽運動発展の
ために闘ってこられました。戦
後、労働者を中心とする新
しい文化、要求の高まりの
中で組織された、民主的な
文化運動の統一組織である
「民主主義文化連盟」の音
楽分野の責任者として活躍
動をつづけてきました。

関鑑子先生は「メーデー
の思い出」として次のよう
に語っています。

「一九四六年五月一日―
七回メーデー会場の中央壇
上に立った私は驚きと感動
にしばし身内を走るふるえ
をとどめることができない
ほどでした。壇上へ指揮を
しながらあふれる涙ごども
に、ながいさまさまの苦し
みが洗い流されていくのを
感じました。そして、この
三〇万人の人びとに必要な
のは、すぐれた音楽家ひと

りよりも、一〇〇人の合唱
隊なのだということを考え
ました。この思いは十九回
メーデーから活動しはじめ
た中央合唱団の創設という
形をとって生かされ今日に
至っています。(一九六九
年四月三十日『赤旗』)

日本の革命的な音楽運動
の伝統と革命的青年運動の
伝統をひきついで、ここに
「青共中央合唱団」が誕生
し、うたごえ運動が出発し
ました。

「うたごえは平和の力」
「うたごえは闘いととも
に」の旗を高くかかげ、
「平和で健康な音楽を国民
のものとする」「日本の民
族的な音楽のすぐれた伝統
をらけつぎ、国民音楽の創
造と普及につとめる」「日
本のうたごえ運動が全国に
はたきはじめました。

関鑑子先生の編集された
「青年歌集」(全十編)は
かくれたベストセラーとし
て全国にひろがり、「しあ
わせのうた」「がんばる
うた」「原爆を許すまじ」
「この勝利ひびけ」とろ
け「日本の夜明け」「地
底のうた」歌劇「沖縄」な
どが生まれ、国民をほげま
しつつあります。

一九五五年関鑑子先生に
しーん国際平和賞が授け
られました。

「あなたの始められたう
たごえ運動は、敗戦で希望
を見失った日本の若い人々
に光と生きる喜びをもたら
しました。いいえ、若い人
にだけではありません。こ
の国に明るさと深く思っ
て安心感を与えました」(山
田耕彦氏。しーん賞受賞
パーティーのメッセージ)

私は今、関鑑子先生
の死をいたむとともに、悲
しみをのりこえ、遺志をひ
きついで、うたごえ運動を
さらに発展させていくこと
を誓います。

全国の仲間みなさん。
うたごえ運動の三つの基
本課題の実現にむかって、
一、うたごえ運動の音楽
力量、普及力量、組織力量
をもっともっと大きく高い
ものにして、その影響力を
国民の大多数のものにして
いく活動を精力的に展開し
ていきたいと思います。

二、日本音楽文化の破壊
と退廃と反動化などから音
楽文化を守り、平和で健康
な音楽を国民のものにして
いくため、多くの音楽家、
音楽団体を手とりあつて
いきたいと思います。

三、平和で健康な音楽が
発展していけるような国の
あり方、民主的な政治をつ
くりあげていきたいと思います。
このために、多くの人び
と、団体を手とりあつて
「革新の政治」をひろめて
いきたいと思います。

全国のうたごえの仲間の
みなさん。日本のうたごえ
運動は二十五年間、関鑑子
先生の指導のもとに今日の
偉大な発展をかちとってき
ました。しかし、その目的
からみると、まだ初步的段
階にあるといえます。今こ
そ先生の遺志をひきついで、
日本の革新の夜明けをきり
ひらく音楽文化建設めざし
団結かため前進しましょ
う。関鑑子先生、やすらか
たにおねわらんだい。